

所沢税務署管内納税貯蓄組合連合会 優秀賞

部活と税金

所沢市立柳瀬中学校三年

並木唯我

僕は吹奏楽部に属しています。今では自分の楽器を使っています。一年生の時は学校備品の楽器を使ってきました。さすがに何年も使われていたらしく、結構ボロボロで、僕が使った後は処分されました。しかし、この楽器なしでは、今の自分はいないと思うのです。

僕らの吹奏楽部の人数は非常に多いので、当然その量相応の楽器が必要となります。自分で楽器を持っている人はいるものの、今現在不足している楽器はありません。きっと、吹奏楽部のためだけの学校備品の金額だけで、三百万円はゆうに超えていると思います。

ただ、そのおかげで僕らは不自由なく吹奏楽ができるのです。

僕は吹奏楽を通して、音楽が上手くなったのはもちろんですが、それよりもっと大きなものを学びました。

仲間と協力すること。女子の多い吹奏楽部で、最初は関わりを避けてました。そもそも、僕は人と協力するのが苦手でした。

でも、吹奏楽というのはみんなと力を合わせて音楽を奏でます。時が経つにつれて、徐々に関わりが深まってきて、より一体となり演奏していくことができるようになってきました。

そして、間近に控えた、僕らにとって最後となるコンク

ール。音楽室前の寄せ書きに、ぎっしり書き込む僕がいました。

僕は吹奏楽部に入って、みんなと一緒に音楽を奏でることによって、大きく変わりました。もし吹奏楽部が無かつたら、きっとつまらない中学校三年間になっていると思います。

僕は、吹奏楽部のために一体どれだけの税金が使われてきたのか、知る由もありません。音楽室にあるクーラーも、実は昔吹奏楽部の部員の要望が通ってつけられたものだと最近知りました。

ひよっとしたら、中学の吹奏楽ごときにこんなに金使って何になる、と思う人はいると思います。確かに、僕らは下手くそな演奏しかできません。しかし、僕がそうであるように、吹奏楽を通して、お金よりもよっぽど価値あるものが手に入ると思います。

僕が、こうして成長できたのは、税金で買われた楽器があつて、僕らの目標となる演奏会が税金によって開催されているからです。

僕は、税金を納めてくださる方々に感謝しなければなりません。

そして、その事が将来の部員にも伝わって、吹奏楽ができる環境に感謝してほしいです。